

令和6年産 水稲 コシヒカリ 栽培しおり

JA香川県東讃営農センター(中央地区)
監修:香川県東讃農業改良普及センター

■稲わらや麦わらは焼かずにすき込みましょう。■毎年種子更新100%に取組みましょう。

■農薬使用の際は、「農薬使用基準」を遵守し、栽培履歴を正確に記帳しましょう。

生育相	活着時期		茎が増える時期		茎の増加を抑える時期		穂ができる時期		穂が大きくなる時期		穂に実が入る時期	
作業	移植日	間断灌水開始 (移植15~20日後頃)	中干し開始	けい酸加里施用 (出穂35日前頃)	中干し終了 (出穂25~20日前頃)	穂肥施用期 (出穂16日前)	出穂期	収穫期				
	早期栽培	4月25日	5月15日	6月5日	6月10日	6月20日	6月29日	7月15日	8月15日~8月18日			
短期栽培	5月1日	5月21日	6月9日	6月14日	6月24日	7月3日	7月19日	8月19日~8月22日				
	5月10日	5月29日	6月14日	6月19日	6月29日	7月8日	7月24日	8月24日~8月27日				
	5月20日	6月7日	6月21日	6月24日	7月4日	7月13日	7月29日	8月31日~9月3日				
短期栽培	6月1日	6月18日	6月30日	7月2日	7月12日	7月20日	8月5日	9月7日~9月10日				
	6月10日	6月26日	7月7日	7月9日	7月18日	7月25日	8月10日	9月13日~9月16日				
	6月20日	7月5日	7月15日	7月17日	7月25日	7月31日	8月16日	9月20日~9月23日				



作業	時期	内容
1 必須防除	移植後	初期除草
	間断灌水	中期除草
2 必須防除	中干し終了	穂肥
	出穂期	湛水管理
3 必須防除	出穂後	落し水
	収穫後	乾燥

栽培管理

● 土壌改良資材等 (kg/10a)

資材名	総量	基肥	出穂35日前頃
粒状くろがねシリカ	100	100	—
ユーキ鉄ケイカル	100	100	—
シリカサポート1号	60	60	—
苦土一番	40	40	—
けい酸加里	20(40)*	(40)*	20

※けい酸加里を基肥で使用する場合は、10aあたり40kgとする。

● 基肥・穂肥の施用基準 (基肥は全層施肥の施用量を示す。) (kg/10a)

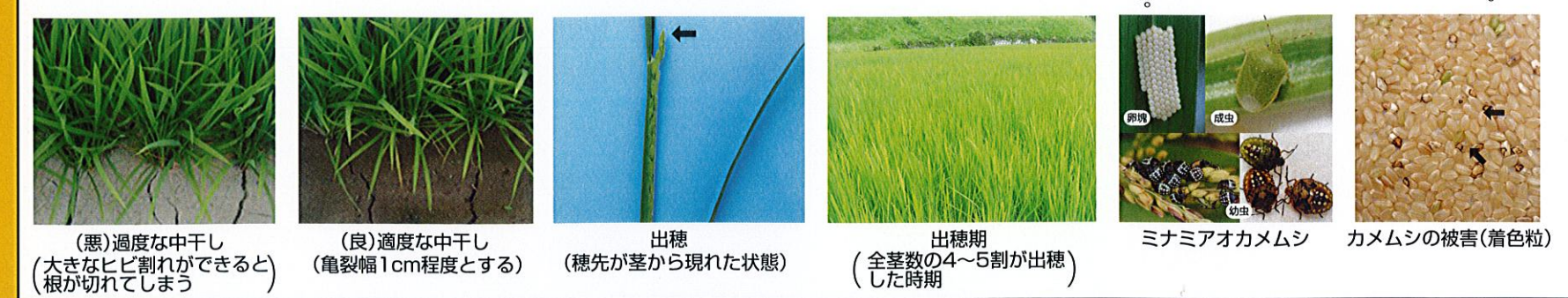
肥料名	総量	基肥	穂肥	備考
コシ一発J	10-10-10	50(40)	50(40)	基肥1回施肥
コシツータッチ	10-10-10	60(50)	35(30)	基肥と穂肥の2回施肥

()は短期栽培(5月15日以降の田植え) ※穂肥の施用は生育状況を見て減肥する。

● 牛ふん堆肥施用体系 (kg/10a)

肥料名	総量	基肥	穂肥
牛ふん堆肥	1000	1000	—
コシツータッチ	40(30)	25(20)	15(10)*

()は短期栽培(5月15日以降の田植え) ※穂肥の施用は生育状況を見て減肥する。



作業	時期	対象病害虫名		使用薬剤及び10a当たり散布量・回数
		必須1回目	必須2回目	必須3回目
必須1回目	移植後	いもち病、紋枯病、ウンカ類	いもち病、紋枯病、稲こらじ病、ウンカ類、カメムシ類	ビルダーフェルテラチエスGT粒剤 50g/箱(1回)
	出穂20~15日前(粒剤の場合)	いもち病、紋枯病、稲こらじ病、ウンカ類、カメムシ類	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	ゴウケツモンスター粒剤 3kg (出穂5日前まで、ただし収穫45日前まで/1回)
	出穂10日前(豆つぶの場合)	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	いもち病、紋枯病	ワイドパンチ豆つぶ 250g (収穫35日前まで/1回)
必須2回目	出穂前~穂期(液剤の場合)	いもち病、紋枯病	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ダブルカットバリダフロアブル 1,000倍 100ℓ (穂期まで/2回以内) ※必要量のみに、規定量のダブルカットバリダフロアブル、スタークル顆粒水溶液の順に混ぜて散布する。
	出穂7~10日後(粒剤、豆つぶの場合)	カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類	スタークル粒剤 3kgまたはスタークル豆つぶ 250g (収穫7日前まで/3回以内)
	出穂10~14日後(水溶液の場合)	カメムシ類、ウンカ類、コブノメイガ、イナゴ類、ツマグロヨコバイ	カメムシ類、ウンカ類、コブノメイガ、イナゴ類、ツマグロヨコバイ	スタークル顆粒水溶液(カメムシ類)2,000倍 100ℓ (収穫7日前まで/3回以内) (ウンカ類)3,000倍 100ℓ
必須3回目	出穂10~14日後	カメムシ類、ウンカ類、コブノメイガ、イナゴ類、ツマグロヨコバイ	カメムシ類、ウンカ類、コブノメイガ、イナゴ類、ツマグロヨコバイ	トリボンEW 1,000倍 150ℓ (収穫14日前まで/3回以内)

※出穂直前に粉剤で防除を行う場合は、飛散に注意し下記の薬剤を使用する。
出穂直前 ダブルカットバリダレボソ粉剤3DL 4kg(穂期まで/2回以内)

〈確認防除〉(10a当たり)

・スクミリンゴガイ(ジャポニタニシ)	移植後(収穫60日前まで/2回以内)	スクミノン 1~4kg
・いもち病	初発期(収穫7日前まで/2回以内)	ブラシソフロアブル 1,000倍・100ℓ
・紋枯病、稲こらじ病	出穂25~20日前(収穫30日前まで/2回以内)	モンガリット粒剤 3~4kg
・カメムシ類、ツマグロヨコバイ	出穂20日前(収穫30日前まで/2回以内)	リンパー粒剤 3~4kg
・コブノメイガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	若齢幼虫期(収穫30日前まで/3回以内)	バグントレソレソ粒剤L 3kg
・コブノメイガ、イナゴ類	若齢幼虫期(収穫21日前まで/6回以内)	バグンSG水溶液 1,500倍・100ℓ

病害虫防除基準

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量・回数
必須1回目	移植後	ビルダーフェルテラチエスGT粒剤 50g/箱(1回)
必須2回目	出穂20~15日前(粒剤の場合)	ゴウケツモンスター粒剤 3kg (出穂5日前まで、ただし収穫45日前まで/1回)
	出穂10日前(豆つぶの場合)	ワイドパンチ豆つぶ 250g (収穫35日前まで/1回)
	出穂前~穂期(液剤の場合)	ダブルカットバリダフロアブル 1,000倍 100ℓ (穂期まで/2回以内) ※必要量のみに、規定量のダブルカットバリダフロアブル、スタークル顆粒水溶液の順に混ぜて散布する。
必須3回目	出穂7~10日後(粒剤、豆つぶの場合)	スタークル粒剤 3kgまたはスタークル豆つぶ 250g (収穫7日前まで/3回以内)
	出穂10~14日後(水溶液の場合)	スタークル顆粒水溶液(カメムシ類)2,000倍 100ℓ (収穫7日前まで/3回以内) (ウンカ類)3,000倍 100ℓ
	出穂10~14日後	トリボンEW 1,000倍 150ℓ (収穫14日前まで/3回以内)

初穂は、乾燥後一昼夜以上経過したのちに行う。
玄米の仕上げ水分は14.5~15.0%とする。
適期収穫に努め収穫後は3時間以内に乾燥に移す。
粉の85~90%(短期栽培は80~90%)が黄変したものを取り取る。
すぎないよう走り水を行う。
収穫作業に支障のない限り遅らせ、落水後も田が乾きクサナムは収穫前に抜き取る。

病害虫防除基準参照



雑草防除基準

散布時期・回数	除草剤名 10a当たり処理量	注意事項
初期除草剤(いすれが使用)	移植直後~9日 ノビエ2.5葉期まで 小包装(パック)10個(250g)	①1キログラムは育苗箱施用剤との誤使用を避けるため、別に保管しラベルの使用上の注意事項を守る。 ②葉害を生じる恐れがあるので、散布後に補植(田直し)はしない。 ③散布後、著しい高温が続く場合、白化や初期生育抑制等を生じる場合がある。 ④散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。また、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。 ⑤軟弱苗、極端な浅水田、漏水田では葉害の恐れがあるので使用しない。
	移植直後~9日 ノビエ2.5葉期まで (移植後30日まで/1回)	⑥多量散布、重複散布はしない。
	移植時(田植同時散布)~ ノビエ3葉期まで (収穫60日前まで/1回)	⑦ジャンボ剤は水深5~6cmの湛水状態で、パックのまま投げ入れる。なお、水面に浮草、藻類の発生が多い時や強風時には、薬剤が拡散しにくく葉害がでやすいので、エンペラー1キログラム剤を使用する。 ⑧フロアブル剤は3~5cmの湛水状態で手振り散布を行う。
中期除草剤(いすれが使用)	移植後7日~ ノビエ3葉期まで (収穫30日前まで/2回以内)	落水後に散布し、3~5日間は入水しない。 散布後2日以内は降雨があると効果が不十分になる。 高温時、軟弱苗、重複散布では葉害が出やすいので注意する。
	移植後25日~ ノビエ4葉期まで (収穫40日前まで/2回以内)	水深5~6cmの湛水状態で散布する。 散布後3~4日間は水深3~5cmを保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 高温時、漏水田、極端な浅水田では葉害が出やすいので使用しない。
	移植後20日~ ノビエ4葉期まで (収穫50日前まで/2回以内)	ツイゲキ豆つぶ250g 250g
発生初期 (収穫45日前まで/3回以内)	モグトン粒剤 2~3kg	ウキクサ・アオミドロ、表面剥離の発生初期に散布する。